



桐蔭キャリア通信 第9号

Tojin Career News



和歌山県立桐蔭中学校・桐蔭高等学校 平成26年9月24日発行

キャリア教育 ちょこっと研修 その24

『キャリア教育で育成すべき力』－「基礎的・汎用的能力」とは－part2

前回の続きで「基礎的・汎用的能力」です。今回は4つの能力の中で残された「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」について紹介します。

<基礎的・汎用的能力> 「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」とは

☆課題対応能力

「課題対応能力」は、仕事をする上で様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立てて、その課題を処理し、解決することができる力である。

この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものである。(中略)

具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

☆キャリアプランニング能力

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

この能力は、社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力である。具体的な要素としては、例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日) p25～p26

教科の授業で考えれば、これらの能力はどこで身に付けられるのでしょうか。「課題対応能力」については、数学の授業で身に付くことができイメージできると思います。方程式の文章問題を解いたり、証明問題に取り組む上で重要な力です。『桐の葉(和歌山学)』における調べ学習では、「なぜそうなるのか?」と疑問をもち、その解決のために原因を追究したり、情報を集めて取り組みます。『キュリオ科学』の「生き物の観察(理科)」や「数楽新聞(数学)」、『キュリオ国際』の「世界の国々が抱える問題を調べる(社会)」でも、育まれる力です。

「キャリアプランニング能力」は、「キャリア教育」と聞いて誰もがイメージする力でしょう。桐蔭中学校では、2年生の道徳の時間に「働く目的」のビデオを見ますし、2年生の冬休みの宿題として、身近な人に「勉強をする目的」をインタビューし、レポートにまとめています。これらはまさにキャリアプランニング能力を育てていると言えるでしょう。もちろん1年生のコンパス1～身近な人から職業について聞く～、2年生のコンパス2-2～企業見学～、コンパス2-1～大学訪問～、3年生のコンパス3～職場体験学習～、今年から参加を予定している「桐蔭総合大学」もあてはまります。また、委員会活動や係の仕事、班活動、掃除についても、その意義や自分の役割を理解して誠実に取り組むよう指導しているのもキャリアプランニング能力を育てる取組といえます。

このように「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」についても、普段の授業や学級経営の中で自分たちが大切にして指導していることの中で、育てることができるのです。前回も言いましたが、われわれが今まで行ってきたことを、この能力を育むという視点で教師が意識し、指導していけばよいのです。(文責 嶋田)